平成３１年３月２５日発行　第１２号

魚沼市 まちづくり委員会だより

市民によるシンポジウム 開催

「みんなで考えるこれからのスキー場」

魚沼市内にある６箇所のスキー場中５箇所が受ける市からの維持助成費は来年度までとなっています。雪国にあって文化・スポーツ施設としても必要性の高いスキー場ですが、このままでは存続が難しいのではという声もでています。雪国ならではのスキー文化。市の財政に頼るだけでなく市民一人一人ができることもあるのではないでしょうか。

この主題の下に、皆様のご意見の場になればと３回に亘ってシンポジウムを開催しました。

第1回

月日　平成30年６月16日（土）13:30～

内容　●基調講演

「大原スキー場の６年の運営を振り返って」

講師　村井正太郎氏

（株式会社コアラ体育サービス＊代表取締役）
＊大原スキー場運営経営参画企業

●参加者による意見交換

第2回

月日　平成30年11月17日（土）13:40～

内容　●「スキー場の現状」

発表者
NPO法人 スノーパーク小出　副理事長　大平俊治 氏
NPO法人 四季の郷やくし　事務局長　星　勝義 氏
株式会社 魚沼須原スキー場　監査役　平井正尚 氏

●参加者による意見交換

第3回

月日　平成31年２月16日（土）13:30～

内容　●座談会　「地域で考え、市民で取り組むまちづくり」

アドバイザー：川村健一氏（広島経済大学教授、まちづくり委員会アドバイザー）
パネリスト：井口　優氏（株式会社アクティ代表取締役会長、八海山麓観光施設指定管理者）
コーディネーター：三友泰彦氏（魚沼市観光協会長、まちづくり委員会政策部会長）

●講演会　「いつまでも住み続けたい地域とは？どんなところでしょうか？」

講師：川村健一氏

第1回、第2回ワークショップでの 参加者の声

- ●雪国魚沼　スキー場は絶対必要！スキー産業だけでなく、地域の問題・課題としての取り組みが必要！
- ●それぞれのスキー場の特性に特化したＰＲ（教育の場、観光の場、若者向け、家族向け・・・）
- ●四季を通した通年でのゲレンデ活用（観光農園、植栽など）
- ●温泉施設など周辺施設との連携による周遊プランの構築
- ●イベント企画や体験とのセットによる多様な集客
- ●友好都市からの受入実績を活かした教育の場としての更なる誘致活動

木育キャラバン推進委員会

平成30年度に木育キャラバンを招致するために教育文化部会と生活自然環境部会が合同で設置した会です。

木のおもちゃで「木育」をスタートする!!

魚沼市総面積の８４％を占める森林は、私たちにとって最も身近な循環資源でありながら、そこから産出される木材の利活用は進まず、国内で使用される木材は、低コストの外国産材が大半を占めている現状となっています。また、生活用品の多くがプラスチックや金属などの工業製品で満ち溢れ、木のもつ魅力や多様な可能性も忘れかけて来ています。そこで魚沼市まちづくり委員会では、雇用拡大と地域資源の活用を図る取組みとして、平成２９年６月に魚沼市長に対して「木育の推進」を提言すると共に「木育」に関するワークショップや講演会等を開催いたしました。

この提言「木育の推進」をさらに前進させるためには、「木育」についてその意味や魅力・可能性を魚沼市民に広く知って貰う必要があります。この「木育」の魅力や可能性を理解して貰うためには言葉や文章だけでは不十分であると思い、今年度は「木育」を体験できる東京おもちゃ美術館の「木育キャラバン」を招致することとしました。

１０月６日（土）の「木育キャラバン」開催当日は、秋晴れの好天に恵まれるとともに、小出郷文化会館の屋外広場で開催された「四季の潤い里山まつり」に合わせて開催し集客の相乗効果を図ったことなどにより、企画書の想定1,000名を上回る1,160名の来場者があり、期待以上の成果を収めることが出来ました。

今回の「木育キャラバン」では、小出郷文化会館小ホールの広さに合わせて７ブロックの木のおもちゃを用意し、子どもから大人まで大勢の人達に心行くまで木のおもちゃに触れ遊んでもらい、木のおもちゃとの触れ合いを通してプラスチックや金属には無い「木」の温もり・肌触り・匂い等を感じてもらうことが出来ました。このことにより、「木育」の魅力や可能性を十分に理解していただけたと思います。

★「木育キャラバン」招致にあたり協賛金を戴いた多数の企業の皆様にあらためて感謝申し上げます。

★「木育キャラバン」招致に関する企画書・報告書・写真等の資料につきましては、魚沼市まちづくり委員会のＨＰで確認することが出来ます。

来場者の声

- 木のおもちゃが欲しくなりました
- 木のぬくもりが感じられました
- 常設のスペースがあるといい
- 南魚沼にも来て下さい
- 楽しかった、また開催してもらいたい
- 木のおもちゃに囲まれて、大人も楽しめました
- 魚沼のイメージにぴったり

自分のこと、地域のこと、魚沼市のこと、一緒に考える仲間を募集しています。

まちづくり委員会役員		各部会開催日程　※どなたでも参加できます。
会　長	桑原　郁夫	まちづくり委員会ホームページで開催日程及び活動報告もご覧いただけます。
副会長	米山　幸子・小林　進	
生活自然環境部会長	森山　右文	第３火曜日　広神コミュニティセンター
健康福祉部会長	石井　健友	第４火曜日　小出公民館
地域産業振興部会長	清水　義次	第３水曜日　小出郷福祉センター
教育文化部会長	髙野　俊治	第４月曜日　小出公民館
政策部会長	三友　泰彦	講師の日程調整もあり随時開催

編集後記

市内で様々なイベントがあり、いろいろな方法で周知している。それでもよく耳にする言葉は、「知らなかった」「もっと宣伝すればいいのに」。あまり関心のないことには目を向けない人は多い。それが知人の薦めやふと目にした案内などで、そのラインからはずれ、普段行かないところやイベントに行ったりする。するとあら不思議「面白かった、よかった」というものにぶつかる。「もっと周知すればいいのに」その人にしてみれば、素直に出てきた言葉かと思う。そこで、「今更言うかー、こんなに宣伝してるのに、前から言ってるのに」などと言ってはいけない。

興味のラインが違えば平行線、交わることはない。それがやっとつながったのだからここで途切れないようにどんどん『周知』していくことが大切。昔から、異業種交流などと言いビジネス面では手を替え品を替え行われている。個人の嗜好でもどんどんこれをやっていくことで、個人の世界は広がり、周知度も上がっていく。

今、世の中は情報があふれ、だからこそ個々で選択し興味の無いことには目を向けず、ピンポイントになっている人も多いのではないか。個々の興味のラインにライン外のイベントなどをどうつなげていくか、それが今後周知度を上げていくのに大事なことと思う。

（佐藤）

平成31年3月25日　第12号　■発行：魚沼市まちづくり委員会　■編集：まちづくり委員会だより編集委員
■連絡先：魚沼市まちづくり室（魚沼市役所）Tel 025-792-9752　E-mail:chiiki@city.uonuma.niigata.jp
■まちづくり委員会ホームページ：https://www.machidukuri-uonuma.com

スキー場の課題の背景にあるもの

会長　桑　原　郁　夫

今年は市民会議などで、市内スキー場をテーマに取り上げ講演・意見交換等行ないました。このスキー場の課題は魚沼市が今後進む方向にも大きく関係してくると考えます。単純に存続するか否かの問題ではなく、市民が考える課題として非常に奥深い内容を持つと考えます。克雪から利雪に移行した中で雪は水不足を解消し、雇用を生み出し、農地を守り生物を育んでいます。

近年、平均寿命が延びる一方で、老後の年金は減らされ社会問題となっていますが、都会に比べ、我が魚沼市のお年寄りは、田んぼを耕し畑で野菜を作り、時季になれば山や川に出かけ山菜や魚をとり、活き活きと暮らしているように感じます。

こんな自然の豊かな魚沼を、特に若い人たちには誇りを持って暮らして欲しいです。団塊の世代の方にも子どもや孫たちに良さを教えて欲しいです。何より学校教育で、この魚沼の文化や風土を世界に誇れる地域と教えて欲しいと思います。そして先人から受け継いだ文化や風土を次世代に繋げていけたら素晴らしい事だし、そう願っています。

健康福祉部会　生涯現役を目指すうおぬま元気ポイントの活用

引き続き「いつまでも元気で地域社会に関わりを持ちながら生活をしたい」をスローガンに掲げて活動しています。

魚沼市は、市民一人ひとりが自分の健康を意識し、健康づくりに取り組むきっかけとしてもらう「うおぬま元気ポイント制度」を行なっています。

健康福祉部会としても、市民が個人で参加するだけでなく、グループで参加した方が、参加者が多くなり普及しやすいと考え、上ノ原グランドゴルフ部に参加をお願いしました。そこでは、参加者が大会に備えて毎日練習を重ねており、運動量は、元気ポイント制度に相応しい内容です。そして、担当者が、参加者をきちんと把握して、スタンプを押しています。

個々人の生活スタイルの中で、所属サークルやグループ又は職場の中等でも、運動や身体を動かす習慣を身に付けるキッカケに「うおぬま元気ポイント」を導入、活用していけるように、楽しく成果がでる工夫が少しづつ広まっています。

その他、地域医療魚沼学校と連携し、楽語い講座・楽想講座への参加等で引き続き学びます。同時に身近で大切な健康、福祉を学ぶ仲間も募集しています。一緒に研鑽を深め生涯現役を目指しましょう。

地域産業振興部会　魚沼市民総出の〝うおぬまPizza〟開発の協働作業展開中！

〝うおぬまPizza〟の普及パートナー探しに着手するも決めてなし！

〝うおぬまPizza〟の試食頂いた方から「美味しかったよ！」「レシピが欲しい！」と予想以上の好評を頂きました。気を良くした部会はH30年度で一挙に普及を目指し、魚沼市行政が旗振りする食に関する団体とのコラボに向けた活動を開始しました。

結果的には、何回かの会合で「美味しい良いモノができれば必ず売れる！」と言う意見に集約され、市民総出の〝うおぬまPizza〟を自分達の手で普及浸透させる活動につなげるまでに至らなかった。部会の力の無さを痛感した。次年度は貴重な体験を反省、初志を貫くための施策に挑戦！

初志を貫き〝うおぬまPizza〟の普及を目指した活動の方向転換！

コシヒカリを生地とした〝うおぬまPizza〟は試食された方々が異口同音に「美味しい！」と言って頂いている。自分達の口と舌で再確認した結果〝うおぬまPizza〟の美味しさに間違いは無い！

H31年の普及活動は原点に立ち返って、

①１～２点のレシピに満足することなく、コシヒカリを始め食材に恵まれた魚沼市、うおぬまの四季を通し食材に合せた〝うおぬまPizza〟のレパートリーを広げ、レシピ公開する。

②四季毎に変る提案の”うおぬまPizza”を部会主催の試食会を都度実施。市民の賛同を得る！一般市民対象の試食会では、〝うおぬまPizza〟を一緒に料理するコーナーを設け、いろんな市民層の積極的な参加を呼び掛ける。

③普及活動の協働パートナーとして、日頃から地域の食を研究テーマに活動されている食のプログループのご意見を頂きコラボを進めて行きたいと考えている。

④ ③の活動の先には各地域で活発な活動をされている「地域コミュニティ」ともコラボができた時が本物の、市民総出の〝うおぬまPizza〟になると考え、積極的なアプローチをする。

いつの日か魚沼市に「うおぬまPizzaの日」誕生に向けて邁進！

生活自然環境部会　第５回　魚沼花じまんコンテスト

花じまんコンテストは、今回で終了します。今までのご協力、ご参加本当にありがとうございました。

▼佐藤さんにお聞きしました。

●金賞おめでとうございます。お気持ちは？
とてもうれしいです。

●お庭造りはいつからしていますか？
バラはだいぶ前から育てていますが、特に退職後一生懸命世話をするようになりました。５年目になりました。

●花苗はどこで仕入れますか？
ネットで買ったり、近所の園芸店で買います。

●庭造りでたいへんなところは？
バラは病気や虫に弱く、予防がたいへんです。

●楽しいところは？
春の庭で花が咲きそろった時期、香りにつつまれる頃、庭でお茶やワインを飲んだりするのが楽しみです。

●バラに囲まれてのワイン、羨ましいです。
ありがとうございました。

金賞は堀之内の**佐藤春代**さん

市長賞に選ばれた**小出小学校**の花だんです。子供達と地域の皆さんと植えました。花の応援隊長の佐藤均さんに伺ったところ、２年ほど前から活動していて子供に植え方を教えたり、休日に水やりをしているそうです。子供達が元気にきちっとやってくれるので嬉しいとのこと。

コキアのガチャピンが秋にムックに変身する発想がすばらしいです。

授賞者のみなさま

市長賞　小出小学校
会長賞　関　富雄　尾澤新吾　城下地区自然を守る会　湯之谷商工会女性部
金　賞　佐藤春代　　**銀　賞**　岡部美佐子　堀之内中学校
銅　賞　荒川時子　酒井礼子　佐梨地区コミュニティ協議会　中家老人クラブ
市民賞　郡山由紀子　花の会新保みどりコミュニティ

（敬称略）

参加者のみなさま

福山老人会・小出郷文化会館・泉沢中山間地・湯之谷芋川集落・入広瀬中学校
新保紅葉会・伊米ヶ崎公民館・北越銀行小出支店・須原コミュニティ協議会
渋川老人クラブ・四番町三町内会・上条コミュニティ協議会　　（敬称略）

政策部会　若者とよそ者の視点から見る魚沼市

政策部会は他の部会と違い、副部会長と二人で運営し、どなたでも参加できる勉強会を例会として行っています。

○　４月２３日　新潟日報小出支局長　　小林睦樹　様
○　６月　８日　魚沼市地域づくり振興公社　近　貴行　様
○　８月２２日　第四銀行小出支店長　　生亀　淳　様
○１２月　４日　セキノヤ店主　　関　和雄　様

それぞれの立場や視点に基づき、今後の魚沼市の在り方に関する示唆に富んだ講演を行っていただきました。

教育文化部会　やる気（木）　本気（木）

今年の部会の主な活動は「木育」でした。

１枚の紙から家具、建築物にいたるまで、木から生まれた製品は多いが、素材となる木に対する意識は薄い。子どもの頃から木を身近に使っていくことを通じて、木や森、林との関わりを考えられる豊かな心を育てたいという思いから生まれた「木育」。これを理解していただくために、講演会を開き、ワークショップをやり、そして今年の東京おもちゃ美術館の「木育キャラバン」の具体化まで３年かかりました。

「木育」から考える地域づくりを主眼に協働し、活動する上でのヒントをたくさん得た取り組みでした。魚沼市の総面積中84％は森林、この資源もっと活用して、自然環境都市宣言の魚沼市を元気にしていきましょう。

今後は、「木育」だけでなく新事業も展開していく予定で計画中です。

木育講演会の様子